

令和 7 年度 海洋博覧会地区内施設指定管理者制度運用委員会における
モニタリングの検証結果について（令和 6 年度実績分）

- 1 施設名：沖縄県国営沖縄記念公園内施設（海洋博覧会地区内施設）
- 2 開催日時：令和 7 年 9 月 4 日（木）10:00～11:45
- 3 開催場所：沖縄県庁 11 階第 1 会議室
- 4 出席者：委員 6 人中 6 人出席
(会長) 荒井 一利
(委員) 竹村 明洋
(委員) 今井 秀行
(委員) 石田 むつみ
(委員) 上地 公代
(委員) 小島 博子
(事務局) 土木建築部都市公園課
(指定管理者) 一般財団法人沖縄美ら島財団
(業務受託者) 一般社団法人日本公園緑地協会
※委員は、学識経験者、財務に精通する者、施設の機能又は指定管理業務の性質に応じた専門的知識を有する者、施設の利用団体(者)を代表する者の順に記載すること。
- 5 検証事項
(1) 令和 6 年度モニタリングの実施結果の検証について
- 6 検証内容
(1) モニタリングは適正に行われているか
(2) 指定管理者に対する県の指導・助言は適切に行われているか
(3) 利用者アンケートや苦情に対する指定管理者や県の対応は適切に行われているか
- 7 検証方法
(1) 事務局によるモニタリングの実施結果の報告
(2) 委員からの質疑・意見

8 検証結果

施設の管理運営は概ね適切になされている。

9 主な質疑・意見

- 委 員：Web アンケートは、入館者のみが答えられるもので、入館していない人が答えることは避けられているのか。
- 事 務 局：HP からはアンケートページに入れないので、水族館出口等に掲示した QR コードから誘導する形で実施している。
- 委 員：アンケートの 6 つの観点について、90% 以上で素晴らしい成果だが、高みを目指すという観点から各項目を比べてみると、売店・レストランだけが過去 5 年間を見ても低い結果になっている。これについてはどのような要因が考えられるか。
- 指定管理者：要因としては、混雑が考えられる。特に売店は、以前より売り場面積を 1.6 倍に拡大し、レジ台数も 10 台に増やしたものの、修学旅行やインバウンドの団体のお客様が集中する時間帯にはレジに行列が発生してしまう。対策として、園内の他の売店に誘導したり、オンラインショップの案内をしたりしているが、現地で買いたいという声が多いため、追加の対策を考えていかないといけない。
- 委 員：園内の他の売店でも、水族館の売店と同じ商品を販売しているのか。
- 指定管理者：共通するものもあるが、全てではないので、今後は修学旅行の時期などには他売店の商品を増強したうえで、旅行会社等を通じてお客様に伝わるようにしていきたい。
- 委 員：市場調査と対面アンケートについて、モニタリングシートに記載があまりないが、結果を教えて欲しい。
- 指定管理者：市場調査については、まだ明確な結論は得られていない。ただ、他のアンケートも含めて指摘が多いのは、「混雑対策」と「トイレ」の問題である。トイレについては、現在、館内のトイレの見直しを行い、増設する方向で設計業務に入っている。以前は、大規模修繕計画に含まれていたが、今回の計画からは外されているので、独自で取り組んでいる。
- 委 員：大規模修繕について、県、指定管理者、国で連携して計画を立てていると思うが、どれくらいの期間を見て計画を立てているのか、また、指定管理者の日々の運営に関する意見は反映されているのか。
- 指定管理者：大規模修繕は、国と県が定めた計画に基づいて、指定管理者が実施することとなっている。建物の躯体や飼育設備の老朽化に関する修繕は最優先に考えている。特に飼育設備は、一度事故を起こして止まってしまうと飼育に大きな支障が出てしまうため、不具合が生じた場合は、国・県に伝えて大規模修繕計画の見直しを依頼している。近年では、海水取水管が損傷した際に、優先して計画に入れた事例がある。
- 事 務 局：計画の年数は通常 30 年から 50 年を見込んでおり、特に 20 年後くらいから劣化が始まるため、施設の劣化状況を把握しながら計画的に更新していくことを考えている。
- 委 員：水族館を建て直して 20 年経つが、どれくらい建物としてもつか。あと 30 年くらいでは建て替えという話になるのか。
- 事 務 局：一般的には 20 年くらいから老朽化が進行する。水族館については海岸沿いにあるなど色々な条件の下で 20 年経過しており、いつとは明言できないが、ある時期には更新の検討をする必要があると考えている。

- 委 員：計画の見直しには時間がかかると思うが、漏水や設備の問題で機動的に使える予備費的なものは予算に組み込まれているのか。
- 事 務 局：大規模修繕の計画そのものを必要に応じて隨時見直しており、予定していなかったものでも、修繕の必要性があれば優先して対応するようしている。予備費がないから対応しないというわけではなく、今ある予算の中で順次対応している。
- 委 員：繁忙期に物販・料飲施設へ応援に入る職員についても、食品衛生管理に関する教育はできているのか。
- 指定管理者：料飲部門については、教育を受けた職員が応援に入る。物販に関しては、一般の職員も応援に入ることがある。
- 委 員：昨今、暑い日が続いているが、屋外部分での熱中症対策について教えてほしい。
- 指定管理者：オキちゃん劇場周辺では日よけテントの増設や冷水機、ミストの設置等の対策をしている。ただ、海洋博公園外の他施設から水族館に来た途端に具合が悪くなって搬送される人もいるので、県内全体でも取り組んでいくべきだと考えている。
- 委 員：昨年度対応した件数は把握されているのか。
- 指定管理者：熱中症疑いの対応は、多い日で1日に2~3件はある。環境省の熱中症対策室の方々にも視察していただき、助言を受けている。
- 委 員：大規模修繕は基金を積み上げて実施するとの話だったが、修繕のための基金の積立状況について教えて欲しい。
- 事 務 局：大規模修繕の基金について、指定管理者から納付される年間8億円の固定納付金にて大規模修繕を実施している。工事の入札残等で残った分は基金に積み立てており、現時点では約1億2,000万円積み立てている。
- 委 員：過去積みあげてきて、何十億とあるものだと思っていた。今後の老朽化への対応は、今まで以上にお金がかかるだろう。
- 事 務 局：将来的な更新は新設となるため、別予算での対応になるだろう。現時点では、将来的な建て替えについて積み立てるわけではなく、今の大規模修繕がまわるように基金を置いて、修繕を実施している。補足として、県の管理を開始した平成30年度から基金に積み立て開始したが、コロナ禍で固定納付金を免除していた時期に基金を取り崩して大規模修繕を実施したため、現時点の積立額が少なくなっている。
- 委 員：国の施設なので、大規模修繕費用を国へ予算要求できないのか。
- 事 務 局：国と県との協定により、大規模修繕は県が納付金の範囲で行うこととなっている。
- 委 員：入場者の国内・国外の比率は把握しているか。
- 指定管理者：はっきりとした調査手法がないため、入場料等の決済方法や、入場ゲートでの職員の目視判断等によって外国人比率を推定している。年間を通して外国人が4割、時期によってはかなり変動しており、今年は、当初は良かったが途中から伸びが少し悪い状況である。今後は、館内のWi-Fiの使用言語等も分析して、複合的に推定する方法を検討したい。
- 委 員：財務状況について、収益率が目標の-1.2%からプラスに転じて2.3%となっているが、入場料の値上げの影響はあると考えられるか。
- 事 務 局：収支計画は年度ごとに立てているため、値上げがプラスに転じたというわけではない。令和6年度については、物価高騰や光熱水費の増額等を見込んだ事業計画としていたものが、入場者数の増加や売店等収入の増加によってプラスに転じている。

- 委 員：研究に関する報告について外部評価委員から高い評価を得たことがモニタリングシートに示されているが、委員会でももっと評価すべきではないか。また、中学生・高校生が修学旅行に行く前に事前学習として下調べした内容をまとめ、文化祭等で展示している。これが海洋生物や地球環境に関心を持ち、研究の道に行く、大学に進む等の入口になる場だと思う。修学旅行生が作成した事前学習のコンテストをやってはどうか。全国の色々な学生に参加してもらい、良い作品をホームページで公開すると、子どもたちの関心が広がっていくだろうし、修学旅行の行き先としても検討してもらえるのではないか。
- 指定管理者：学生のコンテストについては、ぜひ検討させていただきたい。コンテストではないが、水族館職員が近隣の小中学校にて実施している、ウミガメの環境学習の成果は水族館で展示している。できるだけそういった環境学習の成果を来館者の皆さんにも見ていただきたいため、今後も取り上げていきたい。また、沖縄美ら海水族館、沖縄美ら島財団は文部科学省から指定を受けている博物館、研究機関となっているため、今後もトップの研究成果を上げられるように、外部評価も含めて専門家の意見を取り入れながら事業をしていきたい。
- 委 員：研究員の人事費はどこに計上されているのか。
- 事 務 局：研究員の人事費は調査費に含まれている。詳細について、再度確認し報告する。
- 委 員：海洋博の花火大会について、近年有料化されているが、その影響を教えていただきたい。
- 指定管理者：令和6年度から有料席を設けている。有料化の理由は、花火そのものの単価上昇、夜間開園に伴う安全管理の経費負担が増加しているためである。これにより、周辺地域の渋滞がかなり緩和されたと評価している。
- 委 員：参加人数はどうか。
- 指定管理者：令和6年度は微減、今年度は適正人数で運営できた。
- 委 員：営業時間の調整について、なぜゴールデンウィークだけ開場を20分早めているのか。また利用者への告知はどのようにしているのか。
- 指定管理者：公園のゲートが水族館より30分早く開いており、ゴールデンウィークは非常に早い時間から水族館の入場待ちの行列ができてしまうため、熱中症対策、館内の混雑緩和のために早めに開場するようにしている。このことについては、公園のホームページやSNSで告知している。（後日確認したところ、告知をすると、それに合わせて早く来るため、実際は告知していないとのことだった。）
- 委 員：令和6年度にMICEで利用した際、参加者からは大変好評であった。もっと利用を広げられたらと思うが、何か方策はあるか。また、利用状況を教えてほしい。
- 指定管理者：令和6年度は15件実施している。ほかにもウェディングを実施しているため、件数としてはそれほど多くない。夏休み期間である8月以外は毎月受け入れており、今の体制を維持していきたい。件数が伸びない要因としては、沖縄コンベンションセンターや万国津梁館から距離があり、また、参加者の多くは恩納村や那覇市に宿泊していることが多いため、不利な条件が重なっていると考えられる。
- 委 員：MICEの15件の月ごとの内訳を教えてほしい。近年、MICEの利用者は10月、11月がとびぬけて多く、年度後半はコンベンション主体で、4~6月は企業の報奨旅行が多い。また、特に印象に残った事例はあるか。

指定管理者：月別の件数については、後ほど県を通じて資料提供したい。

OIST 主催の MICE では、海外の一線級の研究者の方が集まって下さる機会に、水族館の取り組み等を紹介すると非常に驚いてもらえる。また、海外の富裕層の方から貸し切りさせて欲しいとの問い合わせがあるが、対応できていないところもあるため、今後そのような利用方法も検討していきたいと考えている。

委 員：前回も発言したが、水族館は県内有数の観光施設であるのに、この場に沖縄県の観光や MICE の担当者が同席していないのはなぜか。観光との連携が絶対に必要だと考えている。

事 務 局：今後、文化観光スポーツ部と連携し、観光の担当者が参加するよう取り組んでいきたい。

委 員：財務評価については、モニタリングの最高評価が A になっているが、利益を出して歩合納付金を収めているのであれば、その上の評価ランクを設けてもよいのではないか。

事 務 局：県のモニタリングマニュアルに従って評価している。基準の変更については担当部局と調整したい。

委 員：上のランクを設けることで、納付金を増やすためにサービスが低下することになると本末転倒かと思う。

委 員：いただいたお金を利用者に質を高めてお返しするのがベストだと思う。質との利益背反の部分が出てくるのであれば、むしろ点数は付与しない方がいい。ただ、利益が出たら利用者に還元するのではなく、県に納付するのであれば、点数として評価すべきかと思う。

事 務 局：利益を公園の魅力向上に充てるのか、それとも県に対する納付金を多くするのかは、バランスの取り方だと考えている。県としても、過去に投資した分の回収は行う必要がある一方で、公園の魅力向上も社会から求められているため、バランスを取りながら進める必要があると考えている。評価についても、どこに重きを置くのか、色々議論していく必要がある。

会 長：モニタリングシートの P.29 で、イルカ類の死亡のコメントがあり、年間 5 頭死亡しているが、詳細を教えてほしい。

指定管理者：年間 5 頭は大きい数字であり、今までの管理の中でも最も多い数字となっている。オキゴンドウ 2 頭は、真菌症という感染症による死亡である。イルカの治療に関しては、動物福祉の観点と治療の観点と両面から考えなければならず、今回は感染症だったことから、他に感染させる可能性があるので、非常に難しい判断だった。ユメゴンドウは、国内唯一の個体だったものが死亡しているが、年齢的なものと、もともとの持病が悪化したことによる。ミナミバンドウイルカは、ここ 4 年ほど癌治療を行なっていたが亡くなつた。今回の治療経過を含めて、動物福祉に関する外部評価委員会で、今回の治療経過が適切だったかどうか評価いただいているので、今後、飼育・医療の観点から活かしていきたい。

会 長：鯨類は真菌症が非常に多く、治療がとても大変だが、色々と考え、努力されていると思うので、今後ともよろしくお願ひしたい。